

当事者部会

部会長 成竹 精一 副部会長 川崎 昭仁 長岡 純人 中村 剛

運営委員会担当者 綿貫 好子 ケアマネ連絡会担当者 小林 千佳 小山 多恵子

長野市障害福祉課担当者 小林 栄一 北澤 恵子 松平 純子

1、年間テーマ

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
5	24	Web 会議	11 人	執行部	・令和 4 年度執行体制の確認 ・年間計画
6	28	ふれあい福祉 センター	17 人	第 1 回部会 本年度のふくしネットについて 当事者部会年間計画 防災についての困りごと	・令和 4 年度のふくしネットの動向 ・当事者部会今年度の年間計画 ・防災について、当事者の困っている事 不安に思っている事
7	19	Web 会議	9 人	執行部	・次回の内容確認
8	23	Web 会議	16 人	第 2 回部会 知っている则便利なサービス・ グッズの情報交換 フェスタ当事者部会展示内容 の検討	・便利なサービス・グッズの紹介(割引 制度・はがきの支給等) ・当事者団体の活動紹介 ・当事者の日々の生活の紹介 ・当事者の写真展
9	13	Web 会議	12 人	執行部	・ふくしネットフェスタの展示について
10	27	市役所		ふくしネットフェスタ参加	
11	15	Web 会議	9 人	執行部	・次回の内容確認
12	6	Web 会議	15 人	第 3 回部会 「障がい者の権利擁護について 長野県障がい者共生条例施行後 の現状」学習会	・講師:長野県障がい者支援課課長補佐 大内貴子氏より 制度の説明と具体的な相談事例
2	21	Web 会議	13 人	第 4 回部会 今年度の振り返りとまとめ 来年度への要望	・オンラインで開催できたことは良 かった ・来年度につなげていきたい

令和4年度 事業報告

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

4、課題について

(1)主な検討課題

- ・長野市障害者基本計画、障害者差別解消法施行後の動向について
- ・長野県「障がい者共生社会づくり条例」の動向について
- ・障害の理解・啓発、他障害の理解。そのための情報共有（特にほっこり事例）
- ・障害当事者の防災対策
- ・ふくしネットフェスタへの積極的参加と当事者部会の周知と参加呼びかけ
- ・当事者同士の理解と交流をはかるための交流会開催

(2)検討の目的と結果(現状)

- ・新型コロナの影響が続いている中の本年度の始まりとなり、昨年度と同じ体制で本年度も始めることとなった。また、運営委員会に当事者のメンバーを入れる。地域課題に対するワーキンググループが新たにいくつか立ち上がる、という体制の改革もある中、1回目の当事者部会は防災WGに検討結果を提供するというを目的に開催した。
- ・対面での部会開催は、1回目の部会のみで、あとの2回はオミクロン株感染拡大の影響でWeb会議になってしまったことは残念であった。特に2回目の部会は、昨年できなかった交流目的にも通じるテーマただけに、直接対面して意見交換したほうが活発に交流できたのではないかと感じる。
- ・本年度もふくしネットフェスタに展示部門で参加することとなった。会員の活動や所属団体の紹介を中心に展示したが、ほかに活躍している当事者の方の作品も展示するなど、広がりのある展示ができた。また当日他のイベントとも重なり、その参加者の方も来場くださり、昨年よりも多くの市民の方々にアピールはできたのではないかと感じる。
- ・4月に、ようやく施行された「長野県共生条例」10月には調整委員会も活動を始めたという事で、12月の部会は県障がい者支援課から講師を招き、現状の報告を中心にお話をしてもらった。そのなかで、具体的にあった相談事例を紹介していただいたことは、非常に有意義であった。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・本年度部会のテーマとして取り上げた防災対策・情報交換・権利擁護については、来年度以降も継続して検討していく必要性を感じる。特に、最近の障害者福祉の現場でおきている職員の暴力や不適切な対応のニュースの多さには、危機感を感じている。
- ・県の共生条例も施行されたが、制定当時の担当職員がすべて異動してしまい、そのため実際に効力を発揮できるか疑問を感じざるを得ない。少しでも権利を侵害されることの無いよう当事者

令和4年度 事業報告

部会でも情報を得て対応するなど、関わり続けていきたい。

- ・8月の部会で情報交換した、知っている便利なサービス・グッズなどでも貴重な情報が得られたが、その場限りでなく、参加できなかった方々や、新たに当事者になった方々にも伝えられる良い方法がないか検討していきたい。

- ・この2年間でWeb会議を実際に経験してみて、非常に効率の良い面がある反面、対面での会議のほうがよりお互いの意見交換がスムーズにいくのではないかと感じることもあった。臨機応変に両方を使い分けることが適切かもしれない。

(4)部会の運営体制について

- ・新型コロナ感染拡大の影響や、運営体制の変化もあり、過去2年間、夜の部会が、開催できなかった。昼間仕事をしている部会員の方々が、その影響で参加できなくなっている。来年度夜の部を再び開催する方向で検討したほうが良いのではないかと。

5、総括(1年間を振り返って)

- ・ほぼ、年度当初に計画した通りに当事者部会を開催することが出来たが、昨年度以上にコロナの感染拡大の影響を感じた一年であった。来年度以降、制限も緩和されるようであり、より活発に活動できるように、参加者の拡大などを目指して運営できたらと思います。